

# 唐土訓蒙圖彙

地理

二

			一八六三七	和書門
		一八二	函	
一三	架			
一五	冊			

庫	文	閣	內	
一八四		一八六		和
函		三七		書
二四	一五	號		類
架	冊			

內閣文庫	
番號	和 18637
冊數	15 ( 3 )
函號	184 359

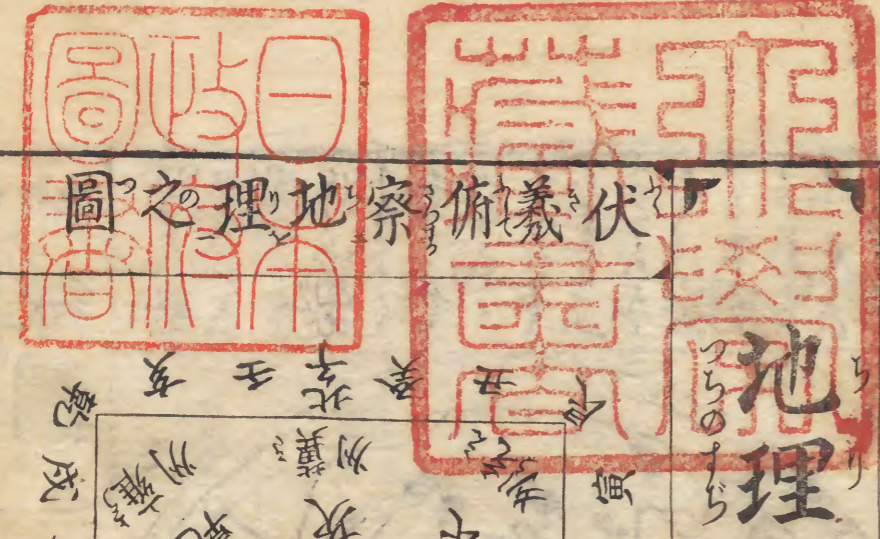


唐土訓蒙圖彙卷之二

和訓附

和名并和訓附

此部は萬國中...  
 此圖伏羲の仰天...  
 文と...  
 包羲氏...  
 法を地...  
 深く...  
 低乃...  
 察て易と作る



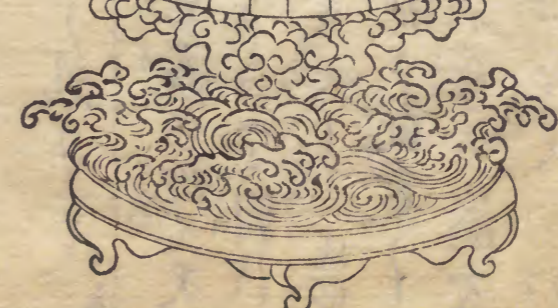
此圖伏羲の仰天...  
 文と...  
 包羲氏...  
 法を地...  
 深く...  
 低乃...  
 察て易と作る

唐土訓蒙圖彙卷之二

大學本

# 地球圖

地球圖のついでに興  
 地全圖を以て  
 圓球の形に  
 して地面の  
 形を分ち  
 天と裁く  
 不これ空  
 われんを  
 多かれを  
 ありしを  
 もも後  
 してわら  
 まも家  
 とわら  
 全家  
 悉曲  
 合へ



# 輿



# 地

# 全



# 圖

此輿地全圖ハ予壯年の時友人の家藏として秘蔵す事  
 年々たより今幸にあつて寫し取りあふとて合縫して一圓  
 球圖とす今あるは元本ノ形状とすつとす毫厘もさへ  
 かく一凸一凹の限一嶋一川の形もさへあつて一  
 尺うらうらゝ果内核がして國名山川の形もさへ  
 のとむ人さげらさるるをいふ



中華十五省  
華夷一統圖

唐土訓蒙圖卷二

朝鮮國圖



唐王訓蒙圖彙卷三

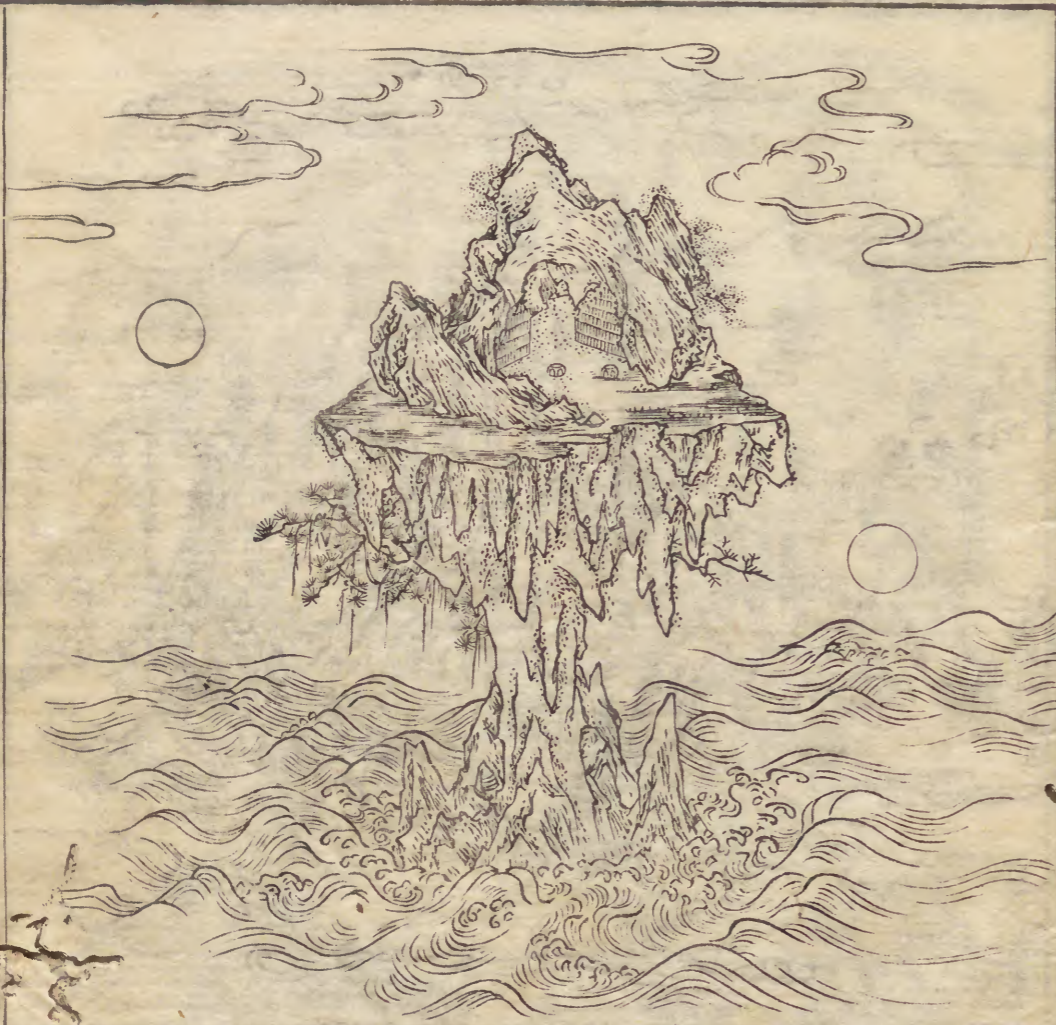
四



唐王訓蒙圖彙卷三

三

琉球國圖



蓬萊山一名ハ雲  
蓬丘山一名ハ雲  
萊東海の中ニ  
あり高さ二千里  
地ノ方三千里上  
ニ金臺玉闕あり  
此ニ神仙の都  
上帝遊息乃化  
海水正星ノ七  
風々化ニ波浪  
多丈人乃の性  
来りて之ヲ惟  
飛仙同ク到  
者あり昔禹王  
水と治テ輪車  
ノの弱水と度  
テ此山ハい  
といハ李



孔林 尼山 山東  
 省の済南府の魯  
 州の魯國也兗州  
 府の曲阜縣六十八  
 里ニ山あり母顔  
 氏の精靈ハ不ニ  
 山の東ニ顔母山あり  
 西ニ昌平山あり濰水  
 泗水乃分流之泗  
 河ハ聖林の後より  
 沂河ハ縣門の外り  
 五り先聖墓ハ  
 聖林の中央あり  
 墓前ニ碑石ニ石  
 冢墓百畝の中ハ  
 荆棘又ハ荆叢ハ  
 草と生々樹品  
 ぐわりこれらるの



此の孔子の廟  
 と持して樹所  
 りてらるるに  
 墓の事ニ大跡  
 二三尺の石壇あり  
 その石各七尺墓  
 の一室ありひ  
 子貢の廟のあり  
 墓の東南ニ享殿  
 三間あり殿前ニ  
 仲ニたあり  
 石麒麟石虎  
 等表ニ殿前ニ  
 門三間あり正  
 堂とあり  
 庭あり  
 庭の南ニ林あり  
 宜聖林と云り





三呉 水經  
 二の吳興吳郡會稽  
 昔と三呉は通  
 典に呉興吳郡  
 丹陽と三呉とて  
 同し春秋乃  
 吳都ハ蘇常の  
 石にわり三國ハ  
 吳ハ初會稽乃  
 太守吳侯の封と  
 後國とさつこの地  
 八  
 吳王闔閭の都  
 姑蘇の地なり

東海  
 兩越  
 の塩ヲ二越の  
 於越ハ其北ヲ  
 わづれ越ハ  
 そのもとを  
 一越ハ  
 禹の越王句  
 踐のたつこ  
 所なり漢  
 時治始なり  
 自ら別て東甌  
 とて天台より北  
 ハ於越の故都  
 とて甌宕より  
 ちと東甌の  
 別境なり



西山 大行山  
 一、聯頭て起伏  
 數百里して層峯  
 屹、西湖と匯して  
 山と壑、山と寺  
 あり、圓形寺と觀  
 たり、回して右に  
 湖あり、功徳  
 あり、三洞あり  
 寺あり、香山樓あり  
 又、行て香山樓あり  
 わり、玉泉、漸く又  
 して平城あり、法  
 王院あり、或ハ二里  
 或ハ十里二十里あり  
 廻、絶僻、山の天觀  
 倚、山あり、玉泉  
 の泉を知らず



關中 關中  
 關あり、中故、周、秦、  
 明の陝西省、西安府  
 あり、古の周、秦、  
 漢、晋、唐、の都  
 あり、所、  
 長安、咸陽、  
 西嶽、華山、  
 母府の内、華陰縣  
 あり、周、秦、漢、唐  
 の、  
 山、渭水、驪山、鴻門  
 あり、の名山、舊跡、文  
 武、始皇、漢人の陵  
 墓、あり、あり



玉泉山 山頂は  
金行宮芙蓉殿あり  
山畔は三の石洞とて  
石崖の上に玉泉の三  
字と刻あり  
瀧は環十餘里を流  
遊むをいとすれども  
西湖に玉泉のふの  
水石を割騰くその  
けりり水とてけを  
その清く佩むの如く  
そよよの系珠の  
のりし味もあゆ  
下八度と三天とりの  
池とゆるる石橋を  
まはる橋下の水流て  
西湖に今も系師八  
景のそのけりし玉  
泉岳とてよづく



蜀棧道 入るは  
のりし味もあゆ  
下八度と三天とりの  
池とゆるる石橋を  
まはる橋下の水流て  
西湖に今も系師八  
景のそのけりし玉  
泉岳とてよづく



洞庭君山 岳州府  
 城の西二十里あり  
 又湘山と名づく狀ハ  
 十二螺髻の如ク  
 昔堯の女湘君殆  
 此に居たり上は  
 楚興寺軒轅臺  
 柳毅井傳書  
 亭也飛昇亭響  
 山酒香山のり道  
 書は才十一の福  
 地と云  
 洞庭湖 雲夢  
 湖 青草湖  
 つりて  
 故に君山を  
 洞庭山といふ事  
 京山とく述



三柳 六の  
 湘水のり三柳  
 公府城の西南三十  
 六里あり大史公  
 云 柳の言茂  
 かりと云ふ人  
 かりと云ふ人の陸  
 機武帝は三柳ハ  
 冬温夏涼也  
 上中下あり故り  
 三柳といふ浦く  
 大盈浦黄橋門  
 斜塘石湖秀州  
 塔をいふ所京  
 地多し



九鯉湖 興之府  
 仙遊縣あり九仙  
 宮山從て一峰を  
 なり石上は飛泉  
 ありそり水の味其  
 一僕の時何氏  
 とりし者兄弟九人  
 あり此泉と飲み  
 して仙人となり  
 かの鯉魚を  
 して上昇す故に  
 俗此湖を巖といふ  
 山と何嶺湖と仙  
 湖水と仙水湖を  
 仙遊と云皆何氏  
 仙の故と云なり  
 九仙宮と云る  
 嶽多しといふ



赤壁山 武昌  
 府城の東南九十里  
 あり宋の元豊五  
 年乃秋七月廿六  
 日蘇東坡相世  
 昌と二人  
 舟よりいりてあ  
 り酒とのりて  
 一のいむ世昌を  
 対酒蕭と云て  
 その勢いよく  
 獲子これより曹  
 操のしとのへ人世  
 のうとて  
 つあり賦をつら  
 り文と前赤壁  
 の賦と云



十三

岳陽樓 岳州府  
 大岳山の陽にあり  
 故に岳陽といふ樓は  
 郡治のありて  
 西面洞庭をたを  
 君山なりけり樓乃  
 創築され云とを  
 ありて唐の開元年  
 中書令張説出  
 て此邦に字を  
 目としオ士と登院  
 して詩をたらしめ  
 よりして樓の名を  
 らつて後宋の隆  
 宗敬つらつて  
 范希文の記をつ  
 らつて蘇子美は  
 と書き邵康の  
 首を纂しと世  
 一四絶と稱は

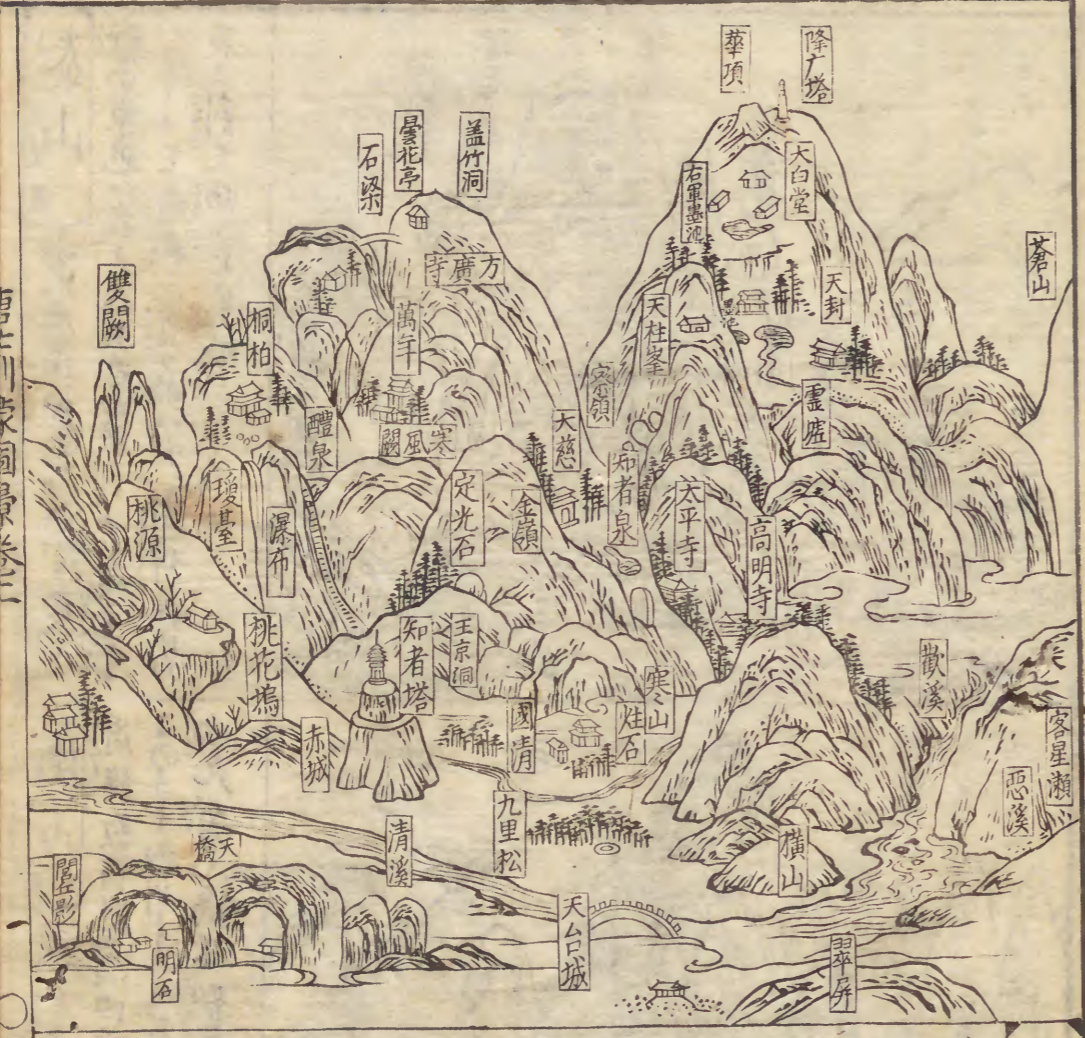


十二

滕王閣 隆興  
 府府城の西章  
 江門城より西閣  
 り唐の高祖の  
 子元嬰は都  
 督の閣内閣を  
 建らるる滕王  
 封さるる故小  
 い名わり又二亭  
 わり南と壓江と  
 北と挹秀といふ  
 及び閣伯典都督  
 とありて此閣を  
 修復とす其の序  
 と王勃十三歳と  
 あり名文と今此  
 閣ハ文よりて閣  
 色といふ



黄鶴樓 武昌  
 府城西よりむじ  
 費登仙黄鶴の  
 驚して此の甜心  
 故に遂に樓を築  
 其城を魏よりて  
 上ハ河漢より下  
 江流のぞむ岳陽  
 樓といはれ一奴の  
 ありんたをよまれ  
 昔人已乘黄鶴去  
 此地空餘黄鶴樓  
 黄鶴一去不復返  
 白雲千載空悠悠  
 晴川歷々漢陽樹  
 春艸萋々鸚鵡洲  
 日暮鄉關何處是  
 煙波江上使人愁



天台山 天台  
 山ハ天台縣の西一  
 百二十里天台山ハ  
 八重なり一乃と  
 高さ一万八千丈周  
 廻八百里高大の故  
 とて上天の三台  
 星一應する故台  
 嶽と称はけい地  
 寺院若干あり  
 その外右橋をて  
 半天よりなる橋  
 布ハ深て由色と  
 なり洞天桃源  
 乃類多くよと  
 く記

唐江川家園景卷之三

泰山 東

山東濟南府泰安州のあり五嶽の東也一名天孫天帝の孫といふを召魂とす王者命ヲ受ク時ハ必封禪以皆石ヲ刻テ功ヲ示ス



衡山 南

荊州の山鎮五嶽の南也周旋數百里高四千一十丈東南ハ湘川の南に湘川より長沙より七百里九向九背之禹王登之と云



華山 西

豫州の山鎮五嶽の西なり項の池あり千葉の蓮と生れぬと服すんぬ化すく華山といふその名勝旧蹟しつとく記す



恒山 北

山西大同府五嶽の北なり恒ハ常ニ常山の字と三子九百丈七尺周廻三千里大玄の泉神州十九程と云と依りてせと度へ



唐土南東國景泰



高山 河南府登封縣あり中岳  
 名ありとて山東と大室と一と西と  
 二と各石ありなりとて



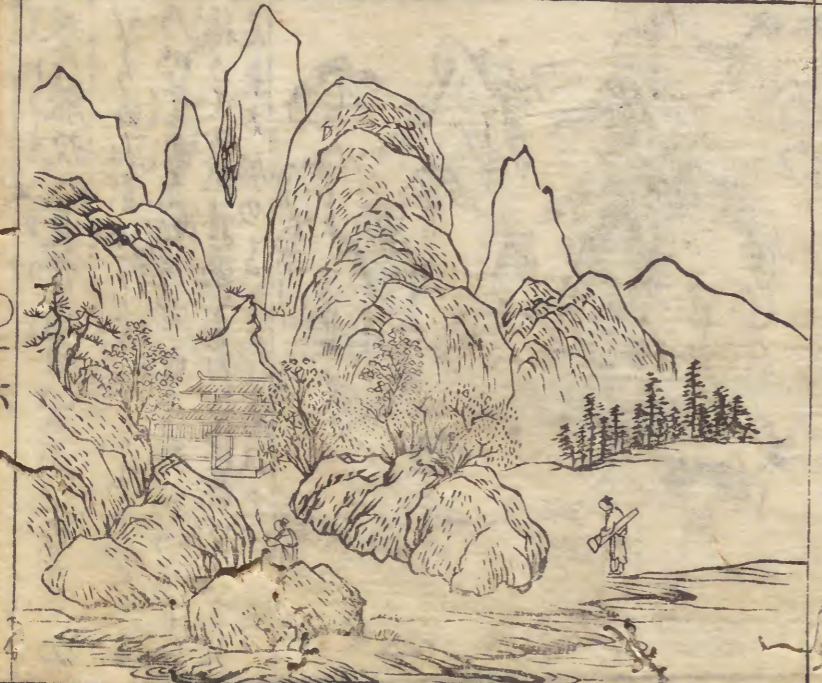
雪堂 魏子瞻元豐二年二月  
 與列子識於雪中造休休亭  
 故四壁一雪と書く雪堂と



羅浮山 增城博羅二縣あり  
 邈々海上のそびる三千六百丈峰  
 四百三十二寺樓白水巖洞池の



鹿門山 襄陽城外あり  
 世に水裏抱て真の隱士の居  
 鹿門歌あり唐の孟浩然



唐土川東回景卷二

我眉山

嘉定州我眉縣ありり  
我眉三山大我中我小我大我  
其高といふより佛書あり  
する普賢大士示現の所なり



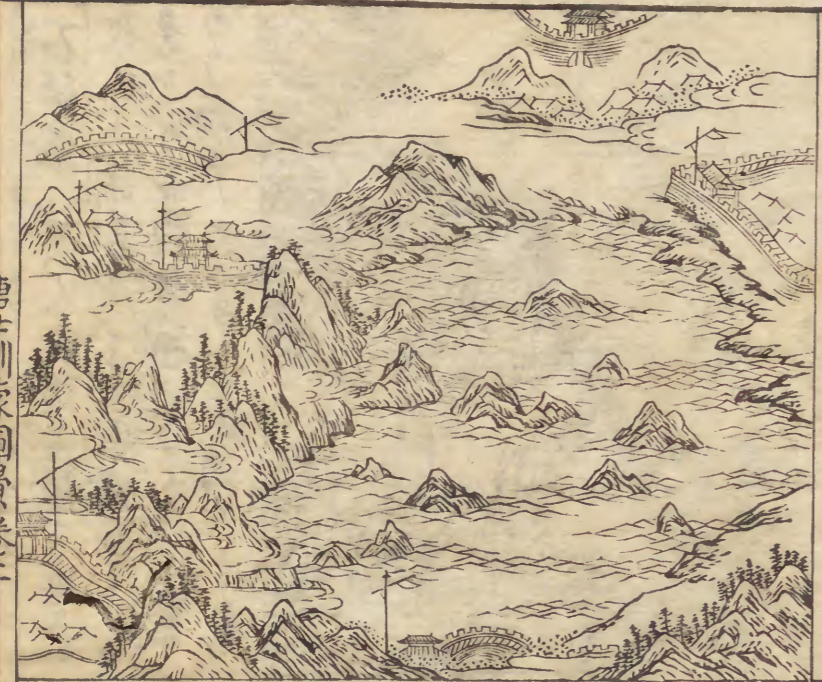
養龍坑

長安司馬山の洞ありり  
ひりの水は源一雲地より下りて  
乃時雲霧晦冥際深き地ありて鳥と  
棲きて必死於駒と産む漢武四年九  
尺長丈餘のものと名をりはるり



五湖

吳郡の東南ありり  
三萬六千頃中に七拾二ありて三  
湖と名をりすして大湖といふ



大庾嶺

南安府城の南五里あり  
山をく登へり初ハ嶺の路峻阻々  
通るより唐の張九齡石壁と用  
新路とおより嶺上は梅多一或ハ梅福



石頭城

呉人石頭上據て城を築き  
故より諸葛亮も石頭虎踞といふ  
是が所石頭西嶺の下大江に臨  
り洞あり是も亦洞天といふ



桃源洞

常德府桃源縣桃源山  
桃源洞あり一名秦人洞洞の北に  
桃花溪あり晋の太元年中武陵の  
人秦と避る人ありといふ



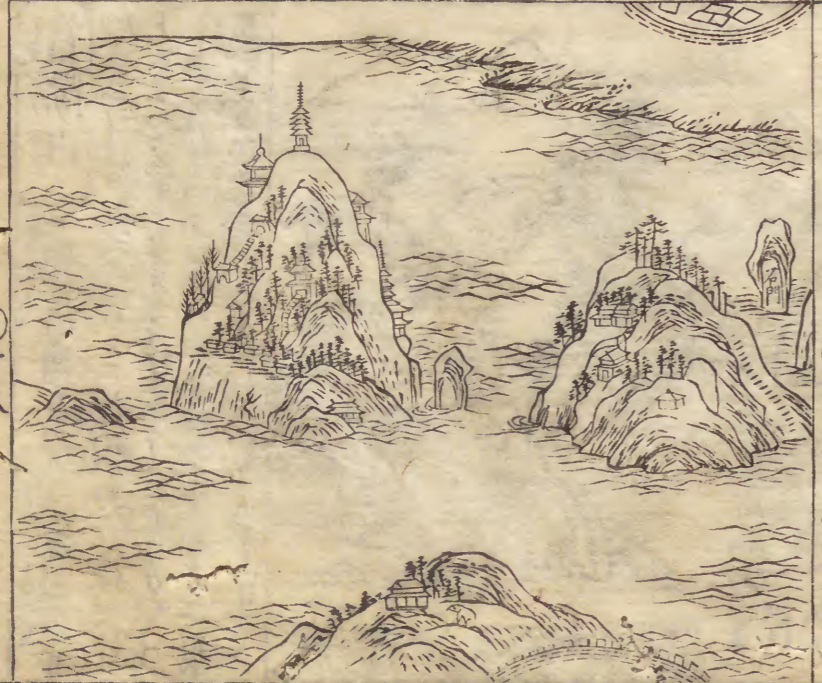
爛柯山

一名石室下石橋あり  
道書に此山と名震とて第八の洞天  
といふ王質此山に入て童子乃  
奕とて斧の柯乃爛るる事あり



京口三山

北固山ハ京口城の北あり  
下長江のうむ金山ハ揚子江の心あり  
ありて北固の山とて焦山ハ京口城の  
東北あり江中三の時三の山皆絶景



雲間九峯 所謂雲間ハひしし吾  
陸雲の雲間陸士龍の語あり  
里て名はく九峯ハ秀なる峯九の  
わけあり



首陽山 蒲州の南あり伯夷叔齊  
かきし処の祠あり二柏樹あり根は  
とも上ハ交てり身お傍ら如し二  
つらやちと祠おの白鹿の馴れ  
薇と食ひ象鹿乳とのむ故なり



岐山 漳列府城の東するに  
あり鶴鳴山と聯り岐山三峯秀  
龍江の上に漳と十里ありなり  
五代の附僧楚熙あり



廬山 南康郡ありその嶺三百  
俗里たハ彭蠡と距はハ漢と阻  
楚の豫章の岳と嶺崇峻  
嶺飛泉絶壑良田の外あり



竹樓

黃州府より制度

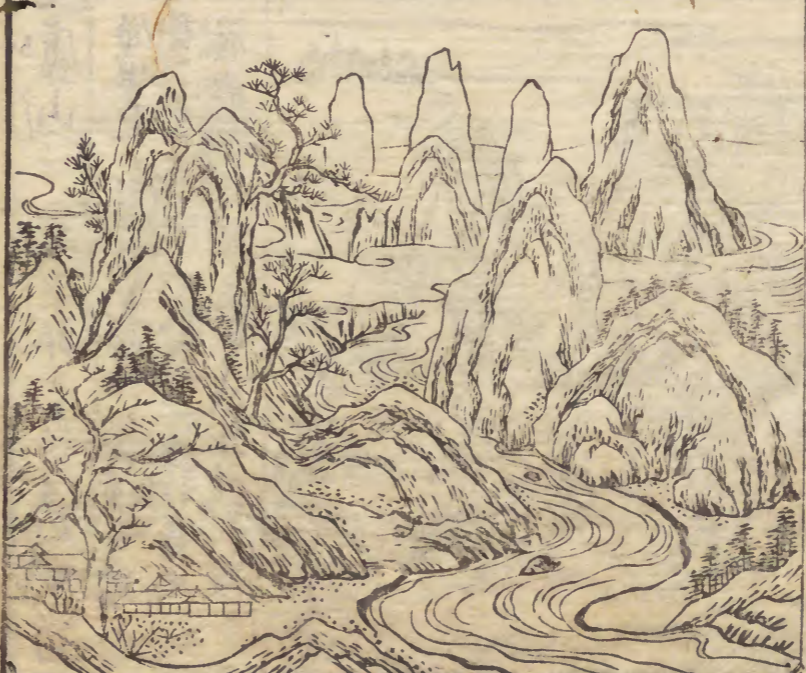
面して江流のくまの帆の  
魚鳥の自適ある樓中乃出圓なる具  
王元之記



九疑山

永州府寧遠縣南六十

里ありそ山九の峯参差おろろ  
いしと巖々々々々々々々々々々々  
かた水流ありて海入る



雁宕

樂清縣より天下の奇なり山

あはれはよ木と伐てこの山と頂は  
比ありよののの禪あり化の谷つ  
まてありな麓よりえんかよる系  
いんか



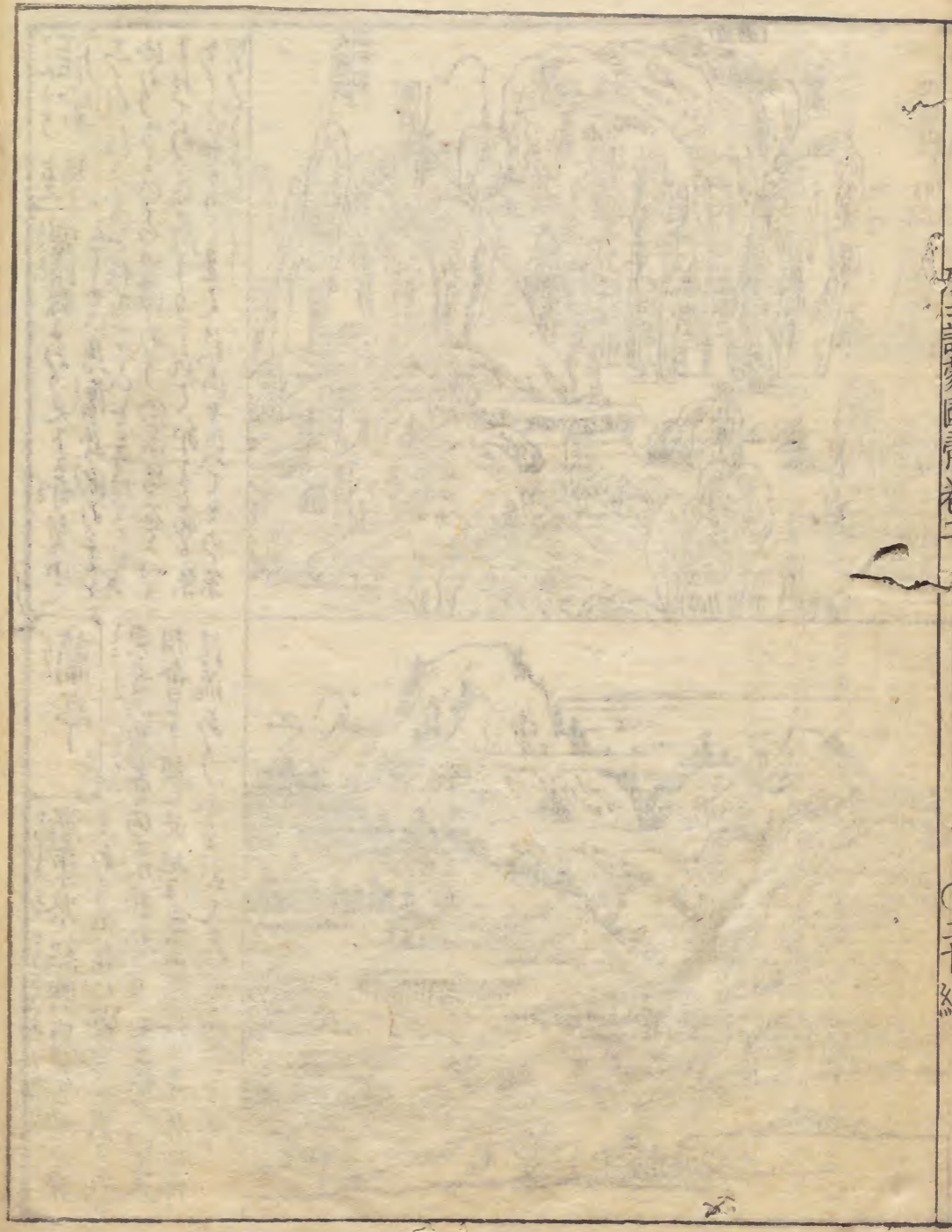
蘭亭

浙東路紹興府會稽郡

あり山陰北の方われん  
東晋の穆帝の永和九年 王羲之四士人  
相會す此地は崇山峻嶺茂林脩竹  
清流あり今も亭とのみあり



[Blank page with some faint smudges and a small mark on the left edge]



唐王訓蒙圖景卷二

二十終

